

著名人 八女の



(1955 -)
小説家

黒木町生まれ。図書館司書を務めるかたわら、数々の文学賞に応募し、平成2(1990)年「血の日本史」で作家デビュー。平成17(2005)年に「天馬、翔ける」で第11回中山義秀文学賞を、同25(2013)年に絵師、長谷川等伯を主人公にした「等伯」で第148回直木賞を受賞。また、小・中学生対象の作文コンクール「地球さんご賞」の実行委員長を務められています。

◆安部龍太郎

あべりゅうたろう

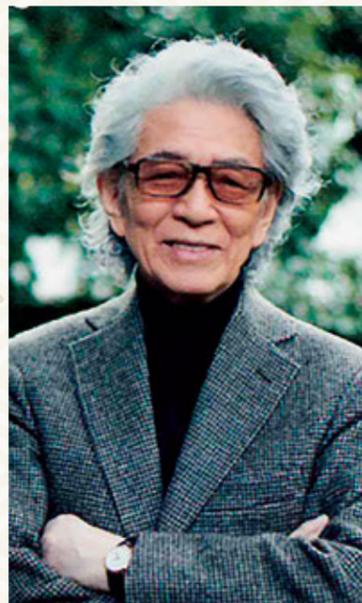


(1953 - 2015)
小説家

八女市生まれ。昭和54(1979)年に大学院の修士論文で扱った儒学者、寺門静軒を描いた小説「男の軌跡」で作家デビュー。江戸を舞台にした時代小説で人気を集め、平成元(1989)年に「東京新大橋雨中図」で第100回直木賞を、平成14(2002)年に「信太郎人情始末帖」シリーズ第一作「おすず」で2002年度中山義秀文学賞を受賞しています。

◆杉本章子

すぎもとあきこ

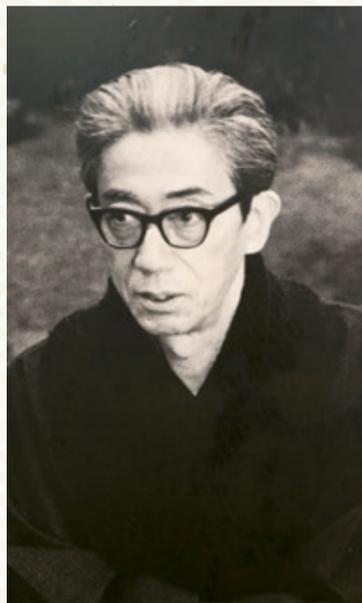


(1932 -)
小説家

立花町生まれ。福島高校(八女市)時代は新聞部の編集長を務め、連載小説等を執筆。早稲田大学中退後は、編集者、作詞家、ルポライターなどを経て、昭和41(1966)年に『さらばモスクワ愚連隊』で作家デビュー。翌年に「蒼ざめた馬を見よ」で第56回直木賞を受賞。91歳を迎えた現在も日本文壇の第一線で活躍されています。また、令和3(2021)年には、創作の過程で参考とした書籍約320冊が八女市に寄贈されました。

◆五木寛之

いつきひろゆき

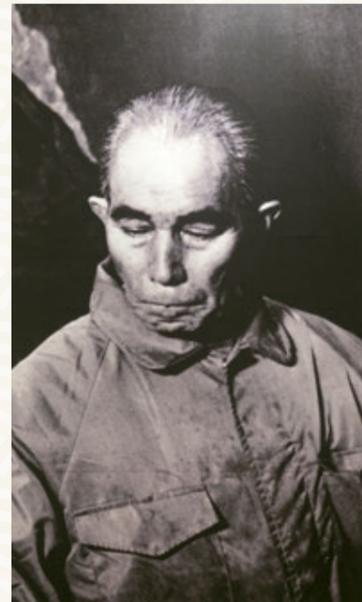


(1907 - 1988)
文芸評論家

長崎市生まれ。豊かな学識を背景に、古典から現代文学まで論じた文芸評論家。黒木町出身の作家・文芸評論家、石橋忍月の子息で、日本文藝家協会の会長を務めました。八女市には墓所と妻で俳人の石橋秀野と同じ石を分け合った夫婦句碑があります。夫婦句碑の建立に際して、親交のあった歌手のさだまさしさんは「夢しぐれ」という曲をつくりました。

◆山本健吉

やまもとけんきち

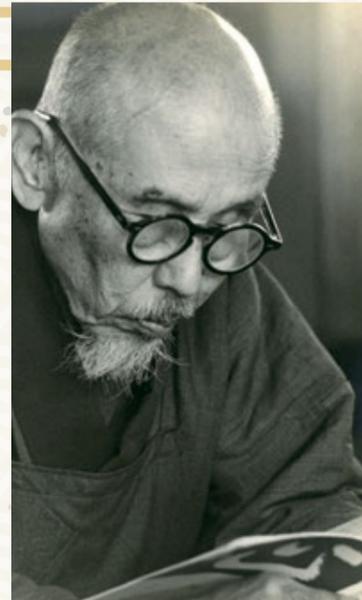


(1898 - 1984)
洋画家

立花町生まれ。自然の風景を日本的な表現で描いた洋画家。立花町に生まれてフランスに学び、帰国後、有島生馬を中心とする芸術家団体「一水会」の創設に参加。阿蘇山をはじめ、日本の山を題材にした風景画を得意とし、日展の常任理事も務めました。平成28(2016)年には、その顕著な功績を称え、田崎作品を常設展示する「八女市田崎廣助美術館」が新設されました。

◆田崎廣助

たさきひろすけ



(1882 - 1969)
洋画家

久留米市生まれ、フランスに留学して中間色による独自の色調を身につけました。帰国後、「東洋のバルビゾン」と呼んで八女の自然と風土を愛し、アトリエを建てて38年間制作に励み、郷土文化の発展に大きく貢献しました。毎年文化の日には、八女公園にある銅像前で「帰居祭」が開かれ、献茶などが行われます。

◆坂本繁二郎

さかもとはんじろう



直木賞作家

文化勲章受章者